

おいしい九谷の旅

平成23年 2月9日(水)・10日(木)

今回開催される「学ぶ・感じる・語らう おいしい九谷の旅」では、加賀市が誇る九谷焼名品群の観賞はもちろんのこと、それを実際に手に取り触れていただく館蔵品鑑賞会、専門家の解説を聞くことができる史跡探訪、人気作家指導による絵付け体験、工房見学、白洲信哉氏を迎えて開催される特別講演会、山荘での夜話など、魅力ある企画をご用意しております。

宿泊は、開湯千三百年の歴史を持つ名湯山代温泉の老舗旅館「あらや滔々庵」。北陸の冬の味覚を、九谷焼の器と共に、存分に堪能していただきます。

他では決して味わえない特別感溢れる九谷の旅。誕生のときから現代に至るまで、九谷焼が持ち続けている魅力を存分に体感していただきたいと考えています。

石川県九谷焼美術館

中矢副館長の迫力ある解説付きで、常設展、特別展をより深く鑑賞することができます(当日は「初代須田菁華展」を開催中)。

また「館蔵品鑑賞会」と題し、同館が保有する九谷焼の名品を、別室にて実際に手に取って鑑賞していただけます。

九谷古窯跡から 吉田屋窯跡へ

今ではダム建設のために人影のなくなった旧九谷村。そこが古九谷の故郷であり史跡となった今でも発掘調査は続けられています。

感じていただきたいのはその風であり、古九谷の圧倒的なデザインを生み出した当時の人々の思いです。

その九谷村およびそこから十数キロ離れた山代の地を拠点として、九谷焼再興に身を捧げたのが四代豊田(吉田屋)伝右衛門であり、吉田屋窯跡(九谷焼窯跡展示館)には、以降も続く窯元の歴史がそのまま色濃く残っています。

大規模な登窯、伝承されてきた技術によって新たに手作りされた上絵付けのための錦窯などからは、九谷焼の制作過程、陶工たちの息づかいを窺い知ることができます。



九谷焼窯跡展示館

白洲信哉氏特別講演会 「美を求める心」

場所：石川県九谷焼美術館ホール
日時：平成23年2月9日 16:00～17:30



(photography 太田真三)

白洲信哉氏・プロフィール

1965年東京都生まれ。細川護熙元首相の公設秘書を経て、執筆活動に入る。

その一方で、日本文化の普及に努め、書籍編集・デザイン・文化イベントのプロデュースを手がける。

父方の祖父母は白洲次郎と白洲正子、母方の祖父は文芸評論家の小林秀雄。

主な著書に『かたじけなさに涙こぼるる』(世界文化社)、『骨董あそび』(文藝春秋)、『白洲スタイル』(飛鳥新社)、『白洲家の流儀』(小学館)など。

絵付け体験(選択A)

吉田屋窯の跡地、風情あふれる敷地の中で、上品な染付作品で多くのファンをもつ山本長左氏、そして精緻な赤絵細描で九谷焼の次代を担う見附正康氏の指導の下、九谷焼の絵付けを体験していただきます。

筆をもつのは何十年ぶりかもしれません、ゆがみもまた一興。思いのたけをひとつの作品に描き込んでいただきたいと考えています。

工房探訪(選択B)

個性あふれる作品を生み出している、二人の現代作家、苧野憲夫氏と山下一三氏の工房を訪ねます。

苧野ブルーと呼ばれる独特な蒼の作品、遊び心いっぱいの独創的なかたち。それらが産声を上げる場を、お二人の掛け合いと共にご覧いただけます。

あらや滔々庵

日本海、山里の冬の味覚はもちろんのこと、器にもこだわった特別料理を堪能していただきます。

当日、石川県九谷焼美術館で開催されているのは「初代須田菁華展」。

北大路魯山人(福田大観)の陶芸の師でもあるこの近代の名工の器もご用意しております。

魯山人ともゆかりの深い老舗旅館で、開湯千三百年を誇る山代温泉の名湯を肌で味わいながら、心からおくつろぎいただきたいと思ひます。

山荘夜話

「山荘夜話」と題し、山代温泉あらや滔々庵・有栖川山荘で白洲信哉氏と共にゆっくりとおくつろぎいただけます。

グラスを傾けるも良し、美について語りあかすも良し。贅沢な時間をお過ごしいただきたいと思ひます。



あらや滔々庵「有栖川山荘」

江沼神社・長流亭

大聖寺藩主前田家の藩邸跡地。江沼神社は、九谷古窯を築窯した初代藩主前田利治公をお祀りした松嶋神社が改称したものです。

今も旧藩邸の趣を残し、境内の池泉回遊式庭園は市の文化財にも指定されています。

長流亭は、三代藩主前田利直の休憩所として宝永6年(1709)に、庭園の一隅に大聖寺川を望むように建築された亭舎です。

国の重要文化財に指定されており、旧大聖寺川の流れに江戸時代中期の四柱造りの落ち着いた姿を写しています。